

総合診療部より

総合診療部看護師長 富井 優子



歯学部附属病院看護部外来部門総合診療部看護師長の任となり2年目になりました。現在総合診療部においては、通年を通し歯学部6年生の卒前臨床実習、研修医の卒後研修が行われています。その他に1年生の早期臨床実習が4月から、夏休み前まで毎週金曜日午前に行われ、患者役、患者付き添い、見学と3班に分かれて実習を行います。そのなかで、患者役と患者付き添い実習が、総合診療部内で実習しています。金曜日は、患者役の1年生に6年生が診療を行い、それ以外の6年生による一般の患者様の診療も行われており、さらに研修医による診療ももちろんです。このように最近は38台のユニット全てがフル稼働することが多くなりました。それに加え、総合診療部の教官や研修医の診療は、合併症をお持ちの患者様が多く、血圧、酸素飽和度のモニター下での診療も少なくありません。その中で看護師は、患者の状態の観察や、急変時の対応をいつも心がけていなくてはいけません。そして他の診療室に比べ診療時間が長いため、特に患者様の安楽に気を配る必要があります。診療室の環境に始まり、診療中の体位の工夫などにより、少しでも快適に診療を受けていただきたいと考えています。多くの患

者様がいらっしゃる中で、その時、その時の一瞬で看護の必要性を見極め看護援助の必要な患者様に適切な看護を提供する必要があります。

また、患者様が安全に治療を受けられるように感染管理にも気を配っています。歯科治療は口腔内なので診療により滅菌レベルが違います。学生が、診療準備時に診療内容と滅菌レベルを明確に考えられることができるように、さらに交差感染の防止、院内の感染防止マニュアルの遵守ができるように心がけています。

最後に、私の役割として、アドボカシーとしての役割は大事だと思っております。学生も研修医も治療する側としては、学んでいる段階です。患者様の気持ち、人間として患者様を捉えることまでにはいたらないことも多いと思われま。看護師である私どもは常に倫理観が問われています。また患者様の気持ちに沿いたい、患者様の意思を尊重したいとも考えています。患者様の気持ちを学生に、学生の気持ちを指導医に伝えることも一つの業務だと考えております。医療人を育成する大学附属病院にあつては、私たち医療従事者の言動が臨床で学ぶ学生の医療人としての態度形成に影響を与えることは明らかです。幅広い知識、技術、教育能力、相手の気持ちを受け止める豊かな感性をみがけるよう今後も追求して行きたいと思っております。